

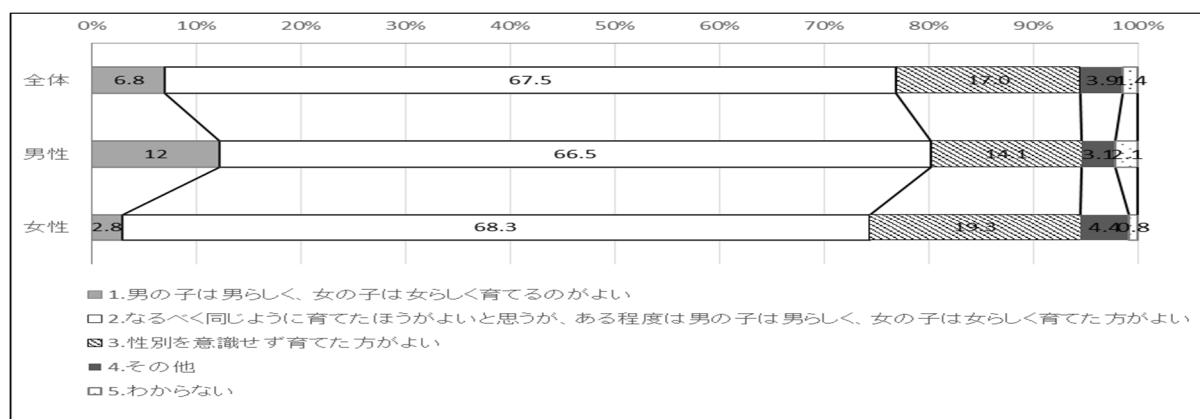
2 子どもの育て方に関する意見（問 16）

- ◆ 「子どもをどのように育てるべきか」という考え方について、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」は男性 12.3%に対して、女性 2.9%と少ないが、「なるべく同じように育てたほうがよいと思うが、ある程度は男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という意見は、男性 67.9%、女性 71.4%といずれも高い。「性別を意識せず育てた方がよい」は、男性 14.4%、女性 20.2%といずれも高いとは言えない。
- ◆ 年代別にみると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」は 20 代が 20.0%と高い。年代が高いほど、「なるべく同じように育てたほうがよいと思うが、ある程度は男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という意見が高い傾向にある。「性別を意識せず育てた方がよい」という意見は、年代が低いほど増加しているとは言えない。

性別集計: Q16. 子育て方針

	度数	1.男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい	2.なるべく同じように育てたほうがよいと思うが、ある程度は男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい	3.性別を意識せず育てた方がよい	4.その他	5.わからない	無回答
全体	440	6.8	67.5	17.0	3.9	1.4	3.4
男性	191	12.0	66.5	14.1	3.1	2.1	2.1
女性	249	2.8	68.3	19.3	4.4	0.8	4.4

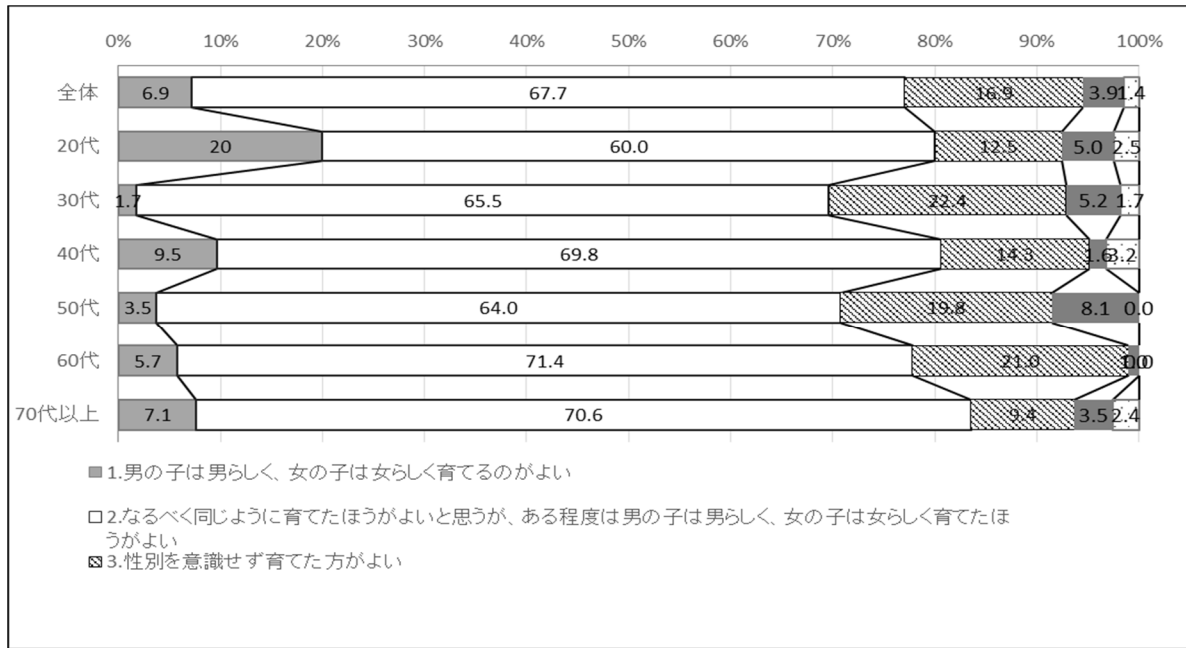
$$\chi^2(2) = 15.123, p < .01^{**}$$



年代別集計: Q16. 子育て方針

	度数	1.男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい	2.なるべく同じように育てたほうがよいと思うが、ある程度は男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたほうがよい	3.性別を意識せず育てた方がよい	4.その他	5.わからない	無回答
全体	437	6.9	67.7	16.9	3.9	1.4	3.2
20代	40	20.0	60.0	12.5	5.0	2.5	0.0
30代	58	1.7	65.5	22.4	5.2	1.7	3.5
40代	63	9.5	69.8	14.3	1.6	3.2	1.6
50代	86	3.5	64.0	19.8	8.1	0.0	4.7
60代	105	5.7	71.4	21.0	1.0	0.0	1.0
70代以上	85	7.1	70.6	9.4	3.5	2.4	7.1

$$\chi^2(10) = 20.698, p < .05^*$$



<その他の回答>

「男女とも同じように育てた方がよいが、ある程度男の子は男らしく、女の子は女らしく」には同意しますが、少しでもその考え方があると今までと変わらないと思うので「性別を意識せずに育てる」としたいが、これも少し不安です。	女性	20代
健康に育てばよい。	男性	30代
性の特性は意識するが、それ以外は個性を生かしたい。男らしく、女らしくという言葉はあまり使いたくない。	女性	30代
男、女と性の違いをお互い理解し、その上で個性を尊重する	女性	30代
男女は関係ない。人としてやるべきことはしなければならないし、出来るような人に育てたい。	女性	40代
自分で自立できるように育てる	男性	50代
その子にあった将来を考える	男性	50代
その子の個性等状況による	男性	50代
性別による得意、不得意をお互いカバーし協力し合える様に意識を育みたい	女性	50代
自分が子供の頃のことを思い出し接する。話しやすい親になる。信じている思いを伝える。	女性	50代
人間として特性を育ててやりたい。	女性	50代
その子の性格や持っているものを尊重して育てる	女性	60代
年齢を考えて区別したらよいと思います。	男性	70代以上

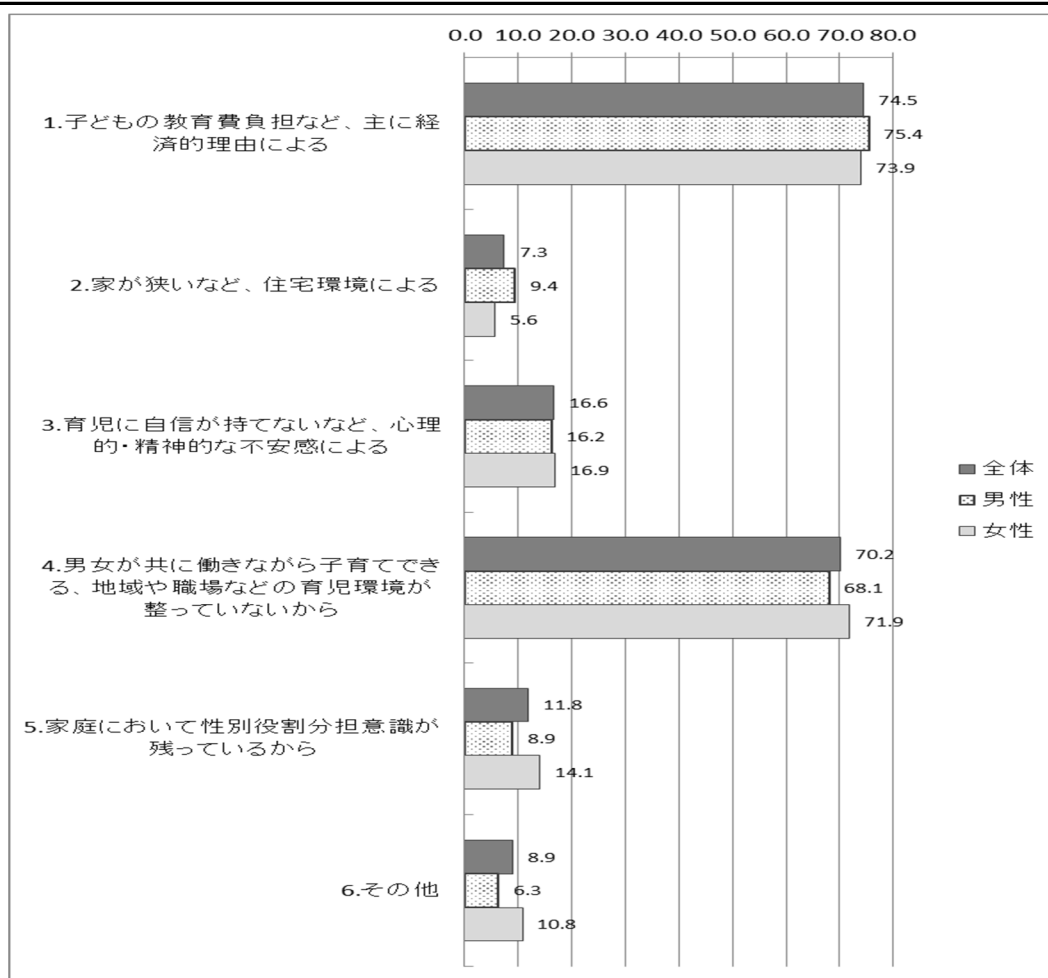
3 少子化の原因についての意見（問 17）

少子化の原因と思われる項目を3つ以内選んでもらった。

- ◆ 「子どもの教育費負担など、主に経済的理由による」が 74.5%と高く、男女差はほとんどない。次いで、「男女が共に働きながら子育てできる、地域や職場などの育児環境が整っていないから」が 70.2%と高く、男女差はほとんどない。これら2項目が飛び抜けて高い。
- ◆ 年代別による意見の差はみられない。

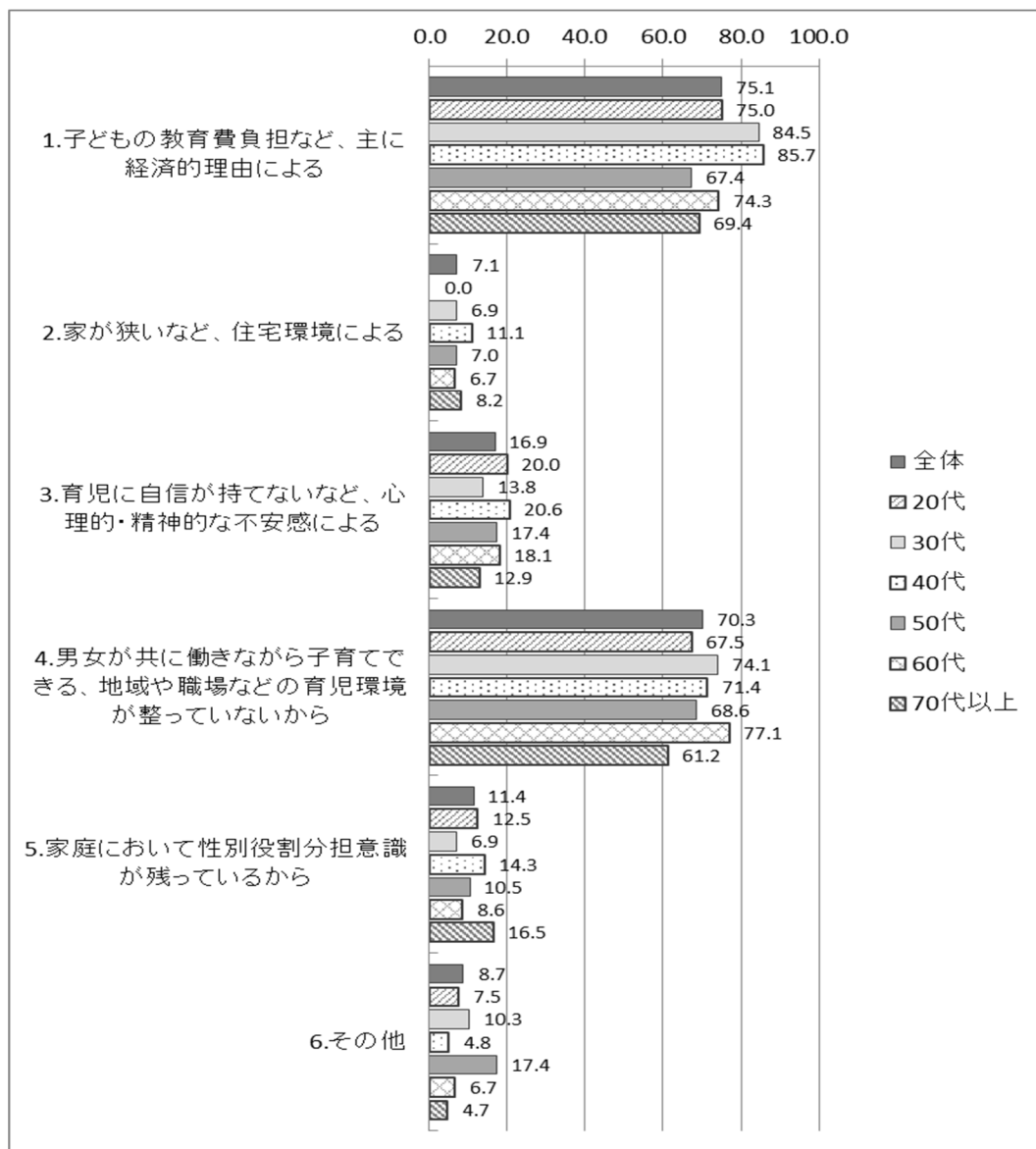
Q17. 少子化原因に関する各設問の性別集計

	1.子どもの 教育費負担 など、主に 経済的理由 による	2.家が狭い など、住宅 環境による	3.育児に自 信が持てな いなど、心 理的・精神 的な不安感 による	4.男女が共 に働きなが ら子育てで きる、地域 や職場など の育児環境 が整ってい ないから	5.家庭にお いて性別役 割分担意識 が残ってい るから	6.その他	無回答	
度数								
全体	440	74.5	7.3	16.6	70.2	11.8	8.9	3.0
男性	191	75.4	9.4	16.2	68.1	8.9	6.3	2.6
女性	249	73.9	5.6	16.9	71.9	14.1	10.8	3.2



Q17. 少子化原因に関する各設問の年代別集計

	度数	1.子どもの教育費負担など、主に経済的理由による	2.家が狭いなど、住宅環境による	3.育児に自信が持てないなど、心理的・精神的な不安感による	4.男女が共に働きながら子育てできる、地域や職場などの育児環境が整っていないから	5.家庭において性別役割分担意識が残っているから	6.その他	無回答
全体	437	75.1	7.1	16.9	70.3	11.4	8.7	2.8
20代	40	75.0	0.0	20.0	67.5	12.5	7.5	0.0
30代	58	84.5	6.9	13.8	74.1	6.9	10.3	1.7
40代	63	85.7	11.1	20.6	71.4	14.3	4.8	0.0
50代	86	67.4	7.0	17.4	68.6	10.5	17.4	2.3
60代	105	74.3	6.7	18.1	77.1	8.6	6.7	1.0
70代以上	85	69.4	8.2	12.9	61.2	16.5	4.7	9.4



<その他の回答>

古い考えが根強く残っているから	女性	20代
子どもの乳幼児医療の負担	女性	30代
周囲の協力	女性	30代
カップルを増やすことが先だと行政はよく言うが、安心して子育てできる体制を考え充実させることの方が重要だと思う。	女性	30代
子どもを得ることのメリットが周知されていない	女性	30代
結婚出来る所得がない。結婚して子供を持つ良さが独身者には伝わっていないから	女性	40代
晩婚が多く、出産適齢期をのがしている。	女性	40代
女性が自立して生計が立てられているから	男性	50代
核家族化が進み子供を見てもらえない。	男性	50代
結婚しない、出来ない人が多い。	男性	50代
夫婦選択別姓等を導入していないこと等	男性	50代
親の価値観	男性	50代
将来の不安	男性	50代
結婚しない人が増えたり、結婚年齢が高齢化している	女性	50代
結婚をしようという意識が薄くなってきているから	女性	50代
競争意識を子どもの頃から植え付けられ、自分の仕事を懸命にこなす若い世代が独身者に多い。特に女性において結婚したいと思わない。	女性	50代
結婚年齢が遅かったり、結婚しない男女が増えているから	女性	50代
女性の自立意識、結婚年齢が高い	男性	60代
職場に保育所を設ける等、企業努力必要で地域もそれに応援してゆく女性が働き続ける環境づくりが求められる。	女性	60代
結婚する年齢が30～40だったから	女性	60代
夫の会社が定時に帰宅できる環境であれば育児に協力してもらえるが、いつも残業で遅い	女性	60代
結婚しない若者が増えている。	女性	60代
核家族化が悪い	女性	60代
結婚しない人が多いのではないか	女性	70代以上
婚期を逃す人が多い。昔はどんな人でも結婚できていたけど、今は・・	女性	70代以上

IV 日頃の生活における優先度

1 生活優先度（問 18）

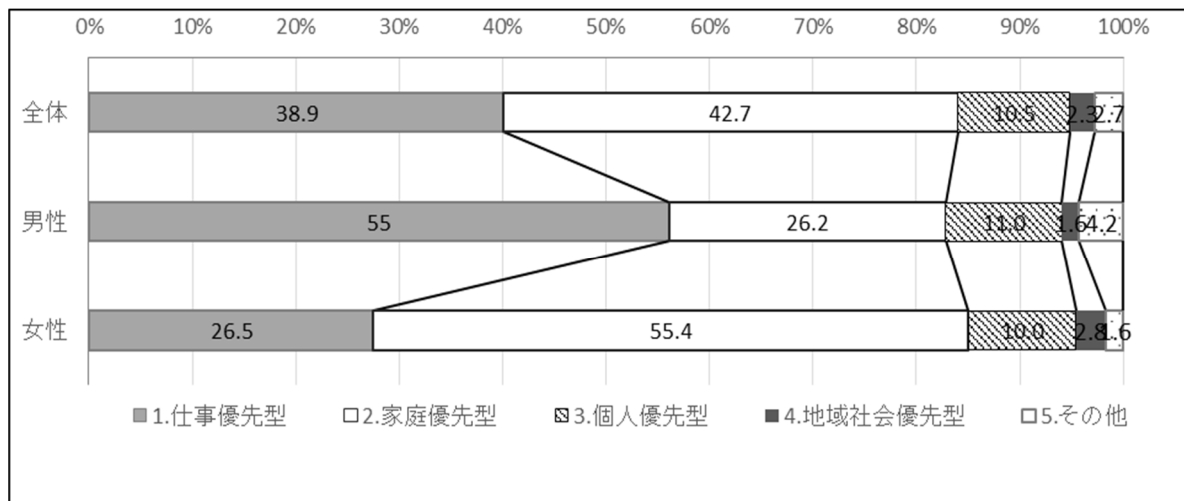
日頃の生活における優先度を問うている。

- ◆ 男性は「仕事優先型」56.1%、「家庭優先型」26.7%に対して、女性は「家庭優先型」57.5%、「仕事優先型」27.5%と、男女で、まったく逆の傾向を示している。
- ◆ 年代別にみると、20代は「個人優先型」が32.5%であり、他の年代より飛び抜けて高い。未婚者が多いことによるものと推測される。30代以上では、「仕事優先型」と「家庭優先型」が同程度の比率になっている。

性別集計：Q18. 生活優先度

	度数	1.仕事優先型	2.家庭優先型	3.個人優先型	4.地域社会優先型	5.その他	無回答
全体	440	38.9	42.7	10.5	2.3	2.7	3.0
男性	191	55.0	26.2	11.0	1.6	4.2	2.1
女性	249	26.5	55.4	10.0	2.8	1.6	3.6

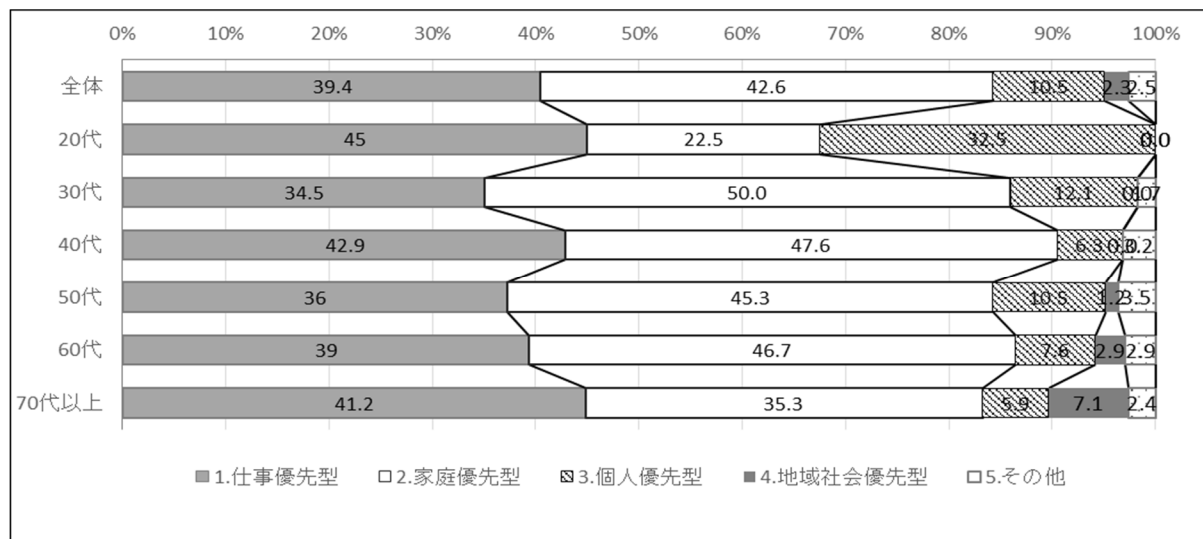
$$\chi^2(3)=45.055, p<.01^{**}$$



年代別集計: Q18. 生活優先度

	度数	1.仕事優先型	2.家庭優先型	3.個人優先型	4.地域社会優先型	5.その他	無回答
全体	437	39.4	42.6	10.5	2.3	2.5	2.8
20代	40	45.0	22.5	32.5	0.0	0.0	0.0
30代	58	34.5	50.0	12.1	0.0	1.7	1.7
40代	63	42.9	47.6	6.3	0.0	3.2	0.0
50代	86	36.0	45.3	10.5	1.2	3.5	3.5
60代	105	39.0	46.7	7.6	2.9	2.9	1.0
70代以上	85	41.2	35.3	5.9	7.1	2.4	8.2

$$\chi^2(15)=41.442, p<.01^{**}$$



<その他の回答>

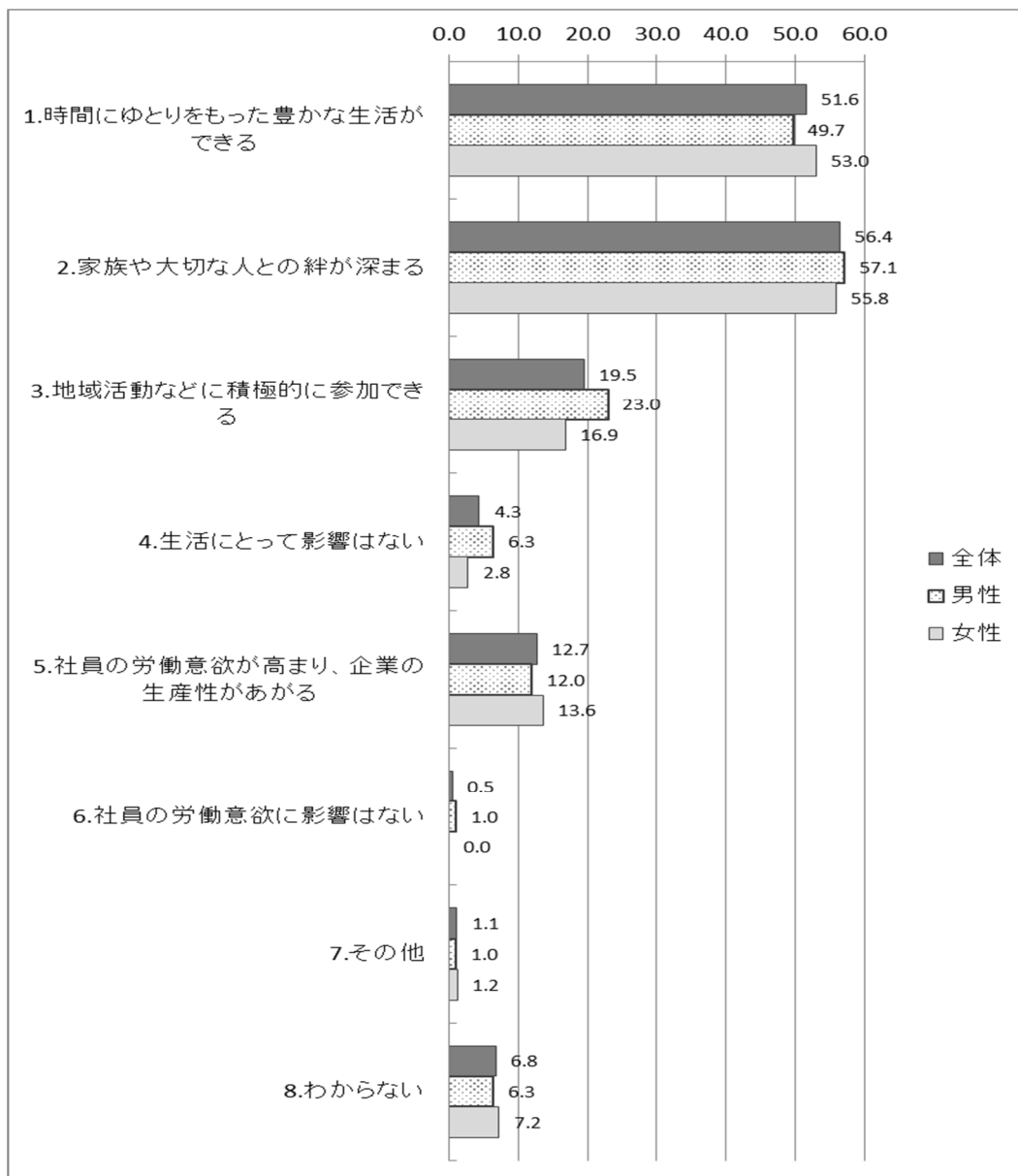
臨機応変にしている	女性	40代
仕事優先、家庭優先の両立を図っている	男性	50代
母子家庭は仕事を優先するしかない	女性	50代
障害児である子が優先	女性	50代
仕事、家庭、地域社会等とのバランスを考慮	男性	60代
人に迷惑をかけないこと	男性	70代以上

2 仕事と生活の調和を進めることで得られる効果（問 19）

- ◆ 仕事と生活の調和がもたらす効果を問う設問では、全体では、「絆の深まり」56.4%、「時間のゆとり」51.6%と続き、男女差はみられない。これら2項目以外では、「地域参加」19.5%、「企業の生産性上昇」12.7%である。
- ◆ 年代別にみると、50代と60代は「時間のゆとり」が高く、6割を超えている。また、60代と70代において「地域活動などに積極的に参加できる」が3割を超えている。
- ◆ 一方で、20代、30代では、「絆の深まり」が他の年代よりも高く、7割前後となっている。また、20代から40代において、「社員の労働意欲が高まり、企業の生産性があがる」が20%以上と、50代以上よりも高くなっている。

Q19. 仕事と生活の調和による効果に関する各設問の性別集計

	度数	1.時間にゆとりをもった豊かな生活ができる	2.家族や大切な人との絆が深まる	3.地域活動などに積極的に参加できる	4.生活にとって影響はない	5.社員の労働意欲が高まり、企業の生産性があがる	6.社員の労働意欲に影響はない	7.その他	8.わからない	無回答
全体	440	51.6	56.4	19.5	4.3	12.7	0.5	1.1	6.8	2.5
男性	191	49.7	57.1	23.0	6.3	12.0	1.0	1.0	6.3	1.6
女性	249	53.0	55.8	16.9	2.8	13.6	0.0	1.2	7.2	3.2



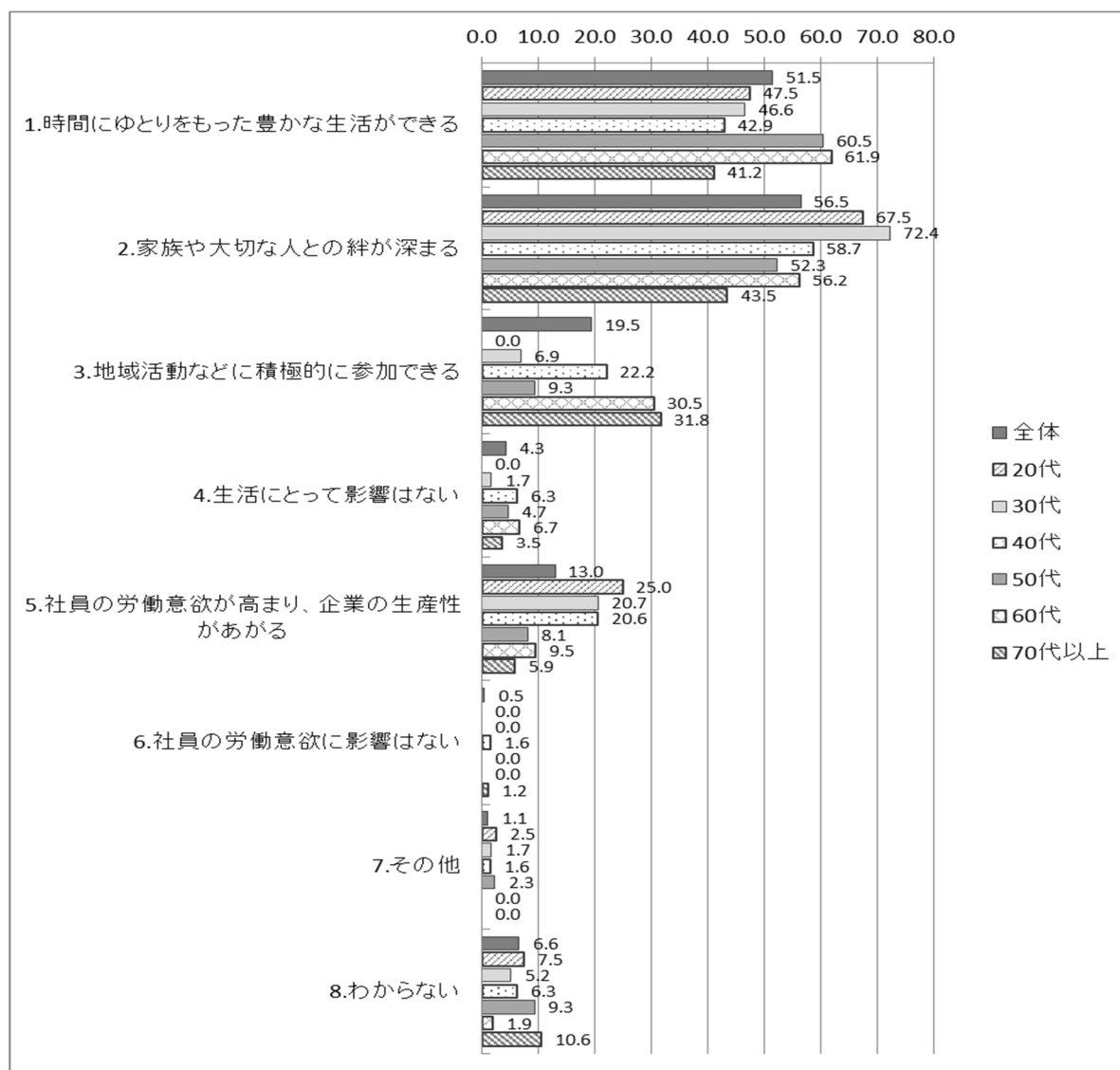
Q19. 仕事と生活の調和による効果に関する各設問の年代別集計

	度数	1.時間にゆとりをもった豊かな生活ができる	2.家族や大切な人との絆が深まる	3.地域活動などに積極的に参加できる	4.生活にとって影響はない	5.社員の労働意欲が高まり、企業の生産性がある	6.社員の労働意欲に影響はない	7.その他	8.わからない	無回答
全体	437	51.5	56.5	19.5	4.3	13.0	0.5	1.1	6.6	2.3
20代	40	47.5	67.5	0.0	0.0	25.0	0.0	2.5	7.5	0.0
30代	58	46.6	72.4	6.9	1.7	20.7	0.0	1.7	5.2	0.0
40代	63	42.9	58.7	22.2	6.3	20.6	1.6	1.6	6.3	0.0
50代	86	60.5	52.3	9.3	4.7	8.1	0.0	2.3	9.3	3.5
60代	105	61.9	56.2	30.5	6.7	9.5	0.0	0.0	1.9	0.0
70代以上	85	41.2	43.5	31.8	3.5	5.9	1.2	0.0	10.6	8.2

$\chi^2(5)$
=12.545,
 $p<.05^*$

$\chi^2(5)$
=39.741,
 $p<.01^{**}$

$\chi^2(5)$
=16.596,
 $p<.01^{**}$



<その他の意見>

仕事をすることで金銭的に豊かになり、生活面でも自分のやりたい事に使えて充実した生活が出来ると思う。	女性	20代
---	----	-----

V 女性と仕事

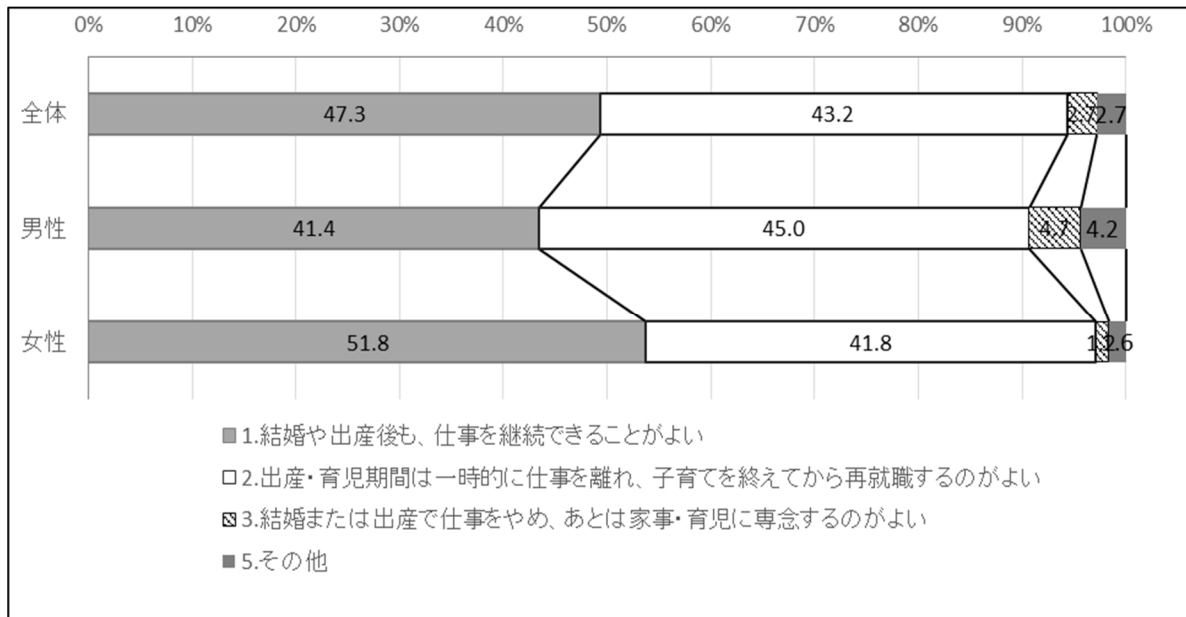
1 女性が仕事を持つことに対する考え（問 20）

- ◆ 女性が仕事を持つことに対する考えは、全体では、「結婚や出産後も、仕事を継続できることがよい」49.3%と、「出産・育児期間は一時的に仕事を離れ、子育てを終えてから再就職するのがよい」45.0%に集中している。「結婚または出産で仕事をやめ、あとは家事・育児に専念するのがよい」はごく少数であり、「女性は仕事を持たないほうがよい」は皆無である。
- ◆ 年代別では、30代において、「結婚や出産後も、仕事を継続できることがよい」が61.4%を占めるものの、20代では57.5%とやや下がっている。しかし、60代において、「結婚や出産後も、仕事を継続できることがよい」が52.9%と、「出産・育児期間は一時的に仕事を離れ、子育てを終えてから再就職するのがよい」44.2%よりも高い数値となっている。

性別集計: Q20. 女性の仕事への考え

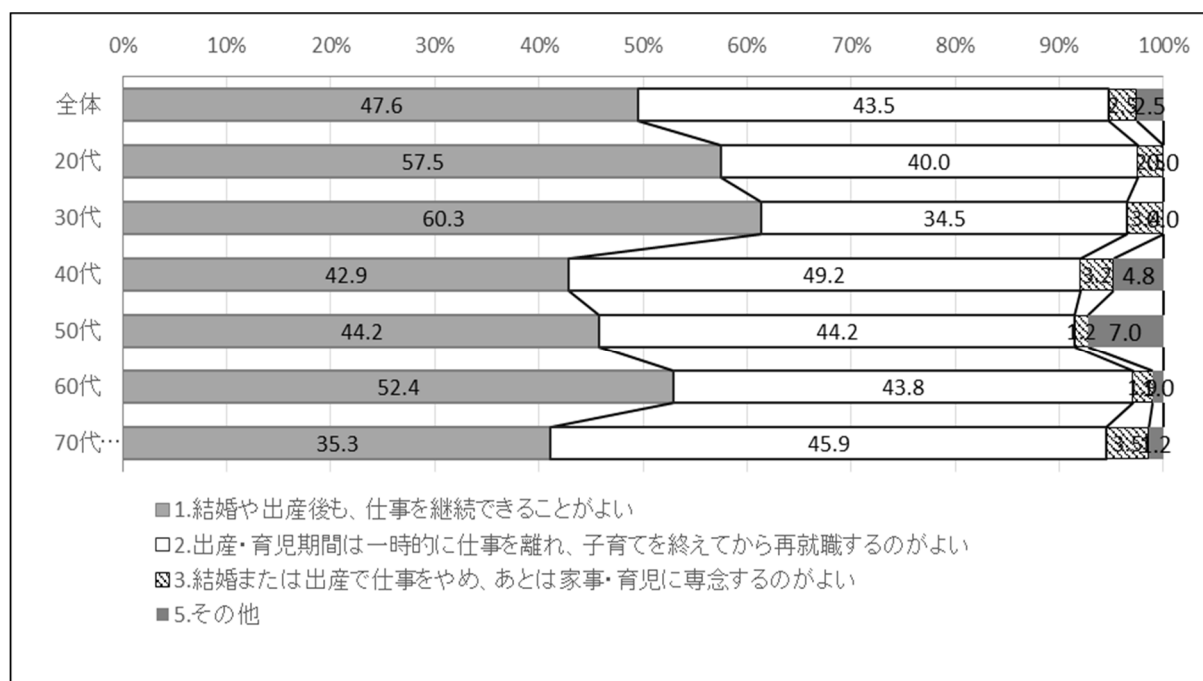
		1.結婚や出産後も、仕事を継続できることがよい	2.出産・育児期間は一時的に仕事を離れ、子育てを終えてから再就職するのがよい	3.結婚または出産で仕事をやめ、あとは家事・育児に専念するのがよい	5.その他	無回答
	度数					
全体	440	47.3	43.2	2.7	2.7	4.1
男性	191	41.4	45.0	4.7	4.2	4.7
女性	249	51.8	41.8	1.2	1.6	3.6

$$\chi^2(2)=7.521, p<.05^*$$



年代別集計: Q20. 女性の仕事への考え

		1.結婚や出産後も、仕事を継続できることがよい	2.出産・育児期間は一時的に仕事を離れ、子育てを終えてから再就職するのがよい	3.結婚または出産で仕事をやめ、あとは家事・育児に専念するのがよい	5.その他	無回答
	度数					
全体	437	47.6	43.5	2.5	2.5	3.9
20代	40	57.5	40.0	2.5	0.0	0.0
30代	58	60.3	34.5	3.4	0.0	1.7
40代	63	42.9	49.2	3.2	4.8	0.0
50代	86	44.2	44.2	1.2	7.0	3.5
60代	105	52.4	43.8	1.9	1.0	1.0
70代以上	85	35.3	45.9	3.5	1.2	14.1



<その他の回答>

子どもの頃からそれがあたり前と思えるように教育する	女性	40代
人それぞれ家庭の状況・経済状況にあわせて違うと思う。	女性	40代
出来ることなら母親が子育てに専念すべき。	女性	40代
金銭的に固執しないほうがよい	男性	50代
個人の選択に任せるべき	男性	50代
本人の希望どおりに	男性	50代
家庭環境と本人次第。生活費?	男性	50代
女性が選択出来るようすべき	男性	50代
女性本人が仕事を続けたい人は続けていくことが出来るように家事・育児に専念した人はその方向に生活していく上で不安のない経済的にも不安なく好きな方が選択できるようにしたい	女性	50代
女性であれ、男性であれ生きていくために仕事をするのは当たり前だと考える	女性	60代
その家庭によって違いがあるので何が良いとは言うことではない	男性	無回答

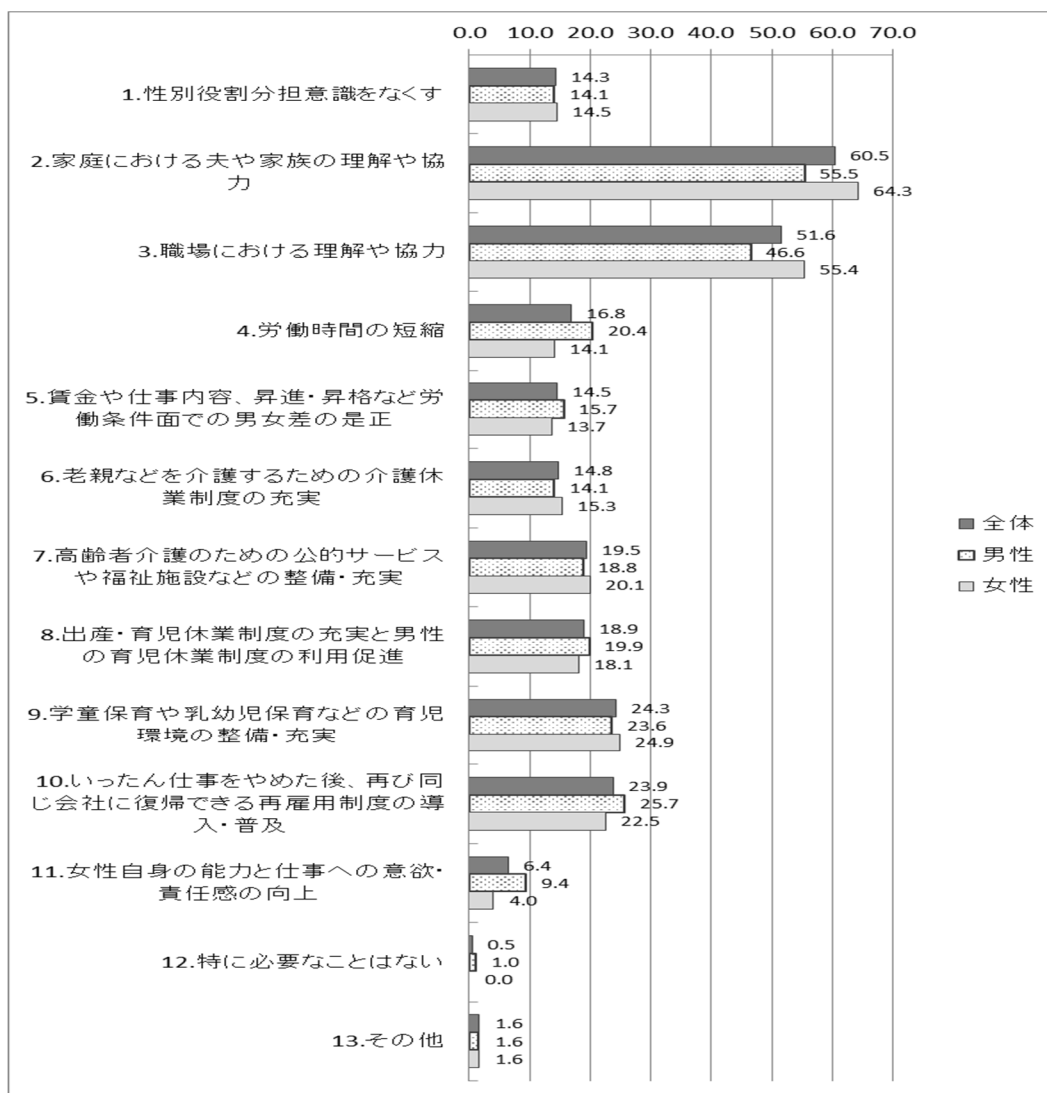
2 女性がもっと働きやすくなるために必要なこと（問 21）

- ◆ 女性がもっと働きやすくなるために必要なことについて、3 つ以内で回答を求めたところ、全体では、「家庭における夫や家族の理解や協力」が 60.5% で最も高く、次いで「職場における理解や協力」が 51.6% となっている。
- ◆ 「家庭における夫や家族の理解や協力」は男性が 55.5% に対し、女性は 64.3% と男女で差がある。また、「職場における理解や協力」は男性が 46.6% に対し、女性は 55.4% であり、男女で差がある。
- ◆ 「女性自身の能力と仕事への意欲・責任感の向上」が必要と回答した割合も、男性は 9.4% に対し、女性は 4.0% と、男女に差がある。
- ◆ 年代別にみると、20 代から 40 代までは、「職場における理解や協力」が 6 割前後と高いが、50 代以上は 5 割を下回る。また、20 代や 30 代において、「出産・育児休業制度の充実と男性の育児休業制度の利用促進」は 3 割前後の回答が見られるが、50 代以上では 2 割を下回っている。

- ◆ 50 代以上では、「老親などを介護するための介護休業制度の充実」は 2 割前後が必要と回答しているが、20 代から 40 代の回答は 1 割を下回っている。「高齢者介護のための公的サービスや福祉施設などの整備・充実」も同様の傾向が見られ、70 代が 31.8%、50 代が 29.1% と高いのに対し、20 代は 0.0%、30 代は 6.9% と回答が少ない。

Q21. 女性の働きやすさ改善に関する各設問の性別集計

	1.性別役割 分担意識を なくす	2.家庭にお ける夫や家 族の理解や 協力	3.職場にお ける理解や 協力	4.労働時間 の短縮	5.賃金や仕 事内容、昇 進・昇格な ど労働条件 面での男女 差の是正	6.老親など を介護する ための介護 休業制度の 充実	7.高齢者介 護のための 公的サービ スや福祉施 設などの整 備・充実	8.出産・育 児休業制度 の充実と男 性の育児休 業制度の利 用促進	9.学童保育 や乳幼児保 育などの育 児環境の整 備・充実	10.いったん 仕事をやめ た後、再び 同じ会社に 復帰できる 再雇用制度 の導入・普 及	11.女性自身 の能力と仕 事への意欲・ 責任感の向 上	12.特に必要 なことはな い	13.その他	無回答	
度数															
全体	440	14.3	60.5	51.6	16.8	14.5	14.8	19.5	18.9	24.3	23.9	6.4	0.5	1.6	2.1
男性	191	14.1	55.5	46.6	20.4	15.7	14.1	18.8	19.9	23.6	25.7	9.4	1.0	1.6	1.6
女性	249	14.5	64.3	55.4	14.1	13.7	15.3	20.1	18.1	24.9	22.5	4.0	0.0	1.6	2.4
		$\chi^2(1)$ =4.015, $p<.05^*$	$\chi^2(1)$ =3.797, $p<.05^*$								$\chi^2(1)$ =5.200, $p<.05^*$				



Q21. 女性の働きやすさ改善に関する各設問の年代別集計

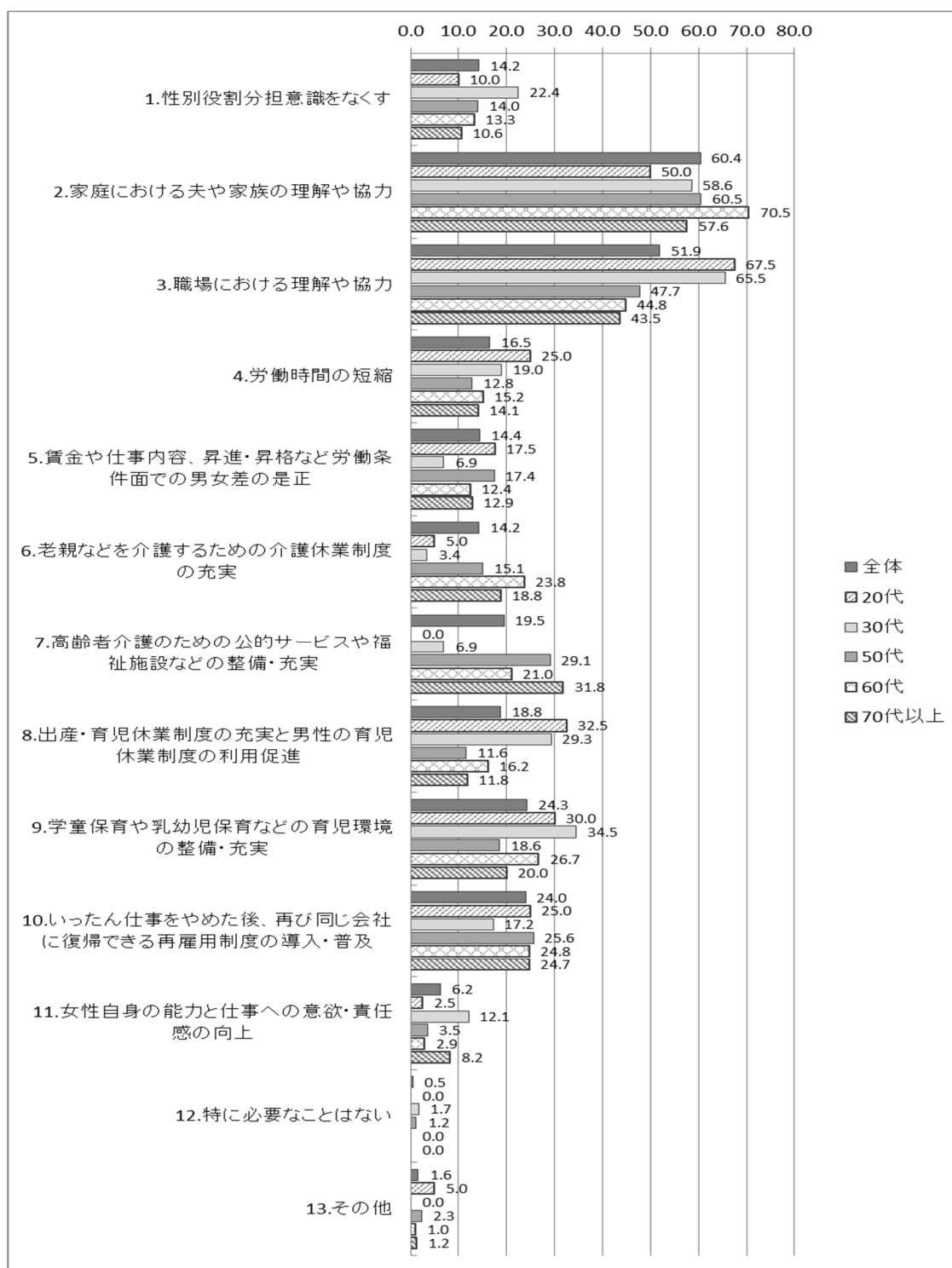
	度数	1.性別役割分担意識をなくす	2.家庭における夫や家族の理解や協力	3.職場における理解や協力	4.労働時間の短縮	5.賃金や仕事内容、昇進・昇格など労働条件面での男女差の是正	6.老親などを介護するための介護休業制度の充実	7.高齢者介護のための公的サービスや福祉施設などの整備・充実	8.出産・育児休業制度の充実と男性の育児休業制度の利用促進	9.学童保育や乳幼児保育などの育児環境の整備・充実	10.いったん仕事をやめた後、再び同じ会社に復帰できる再雇用制度	11.女性自身の能力と仕事への意欲・責任感の向上	12.特に必要なことはない	13.その他	無回答
全体	437	14.2	60.4	51.9	16.5	14.4	14.2	19.5	18.8	24.3	24.0	6.2	0.5	1.6	1.8
20代	40	10.0	50.0	67.5	25.0	17.5	5.0	0.0	32.5	30.0	25.0	2.5	0.0	5.0	0.0
30代	58	22.4	58.6	65.5	19.0	6.9	3.4	6.9	29.3	34.5	17.2	12.1	1.7	0.0	0.0
40代	63	15.9	55.6	58.7	19.0	20.6	6.3	11.1	23.8	20.6	25.4	9.5	0.0	1.6	0.0
50代	86	14.0	60.5	47.7	12.8	17.4	15.1	29.1	11.6	18.6	25.6	3.5	1.2	2.3	2.3
60代	105	13.3	70.5	44.8	15.2	12.4	23.8	21.0	16.2	26.7	24.8	2.9	0.0	1.0	0.0
70代以上	85	10.6	57.6	43.5	14.1	12.9	18.8	31.8	11.8	20.0	24.7	8.2	0.0	1.2	7.1

$$X^2(5) = 12.509, \\ p < .05^*$$

$$X^2(5) = 21.574, \\ p < .01^{**}$$

$$X^2(5) = 34.555, \\ p < .01^{**}$$

$$X^2(5) = 14.968, \\ p < .05^*$$



<その他の回答>

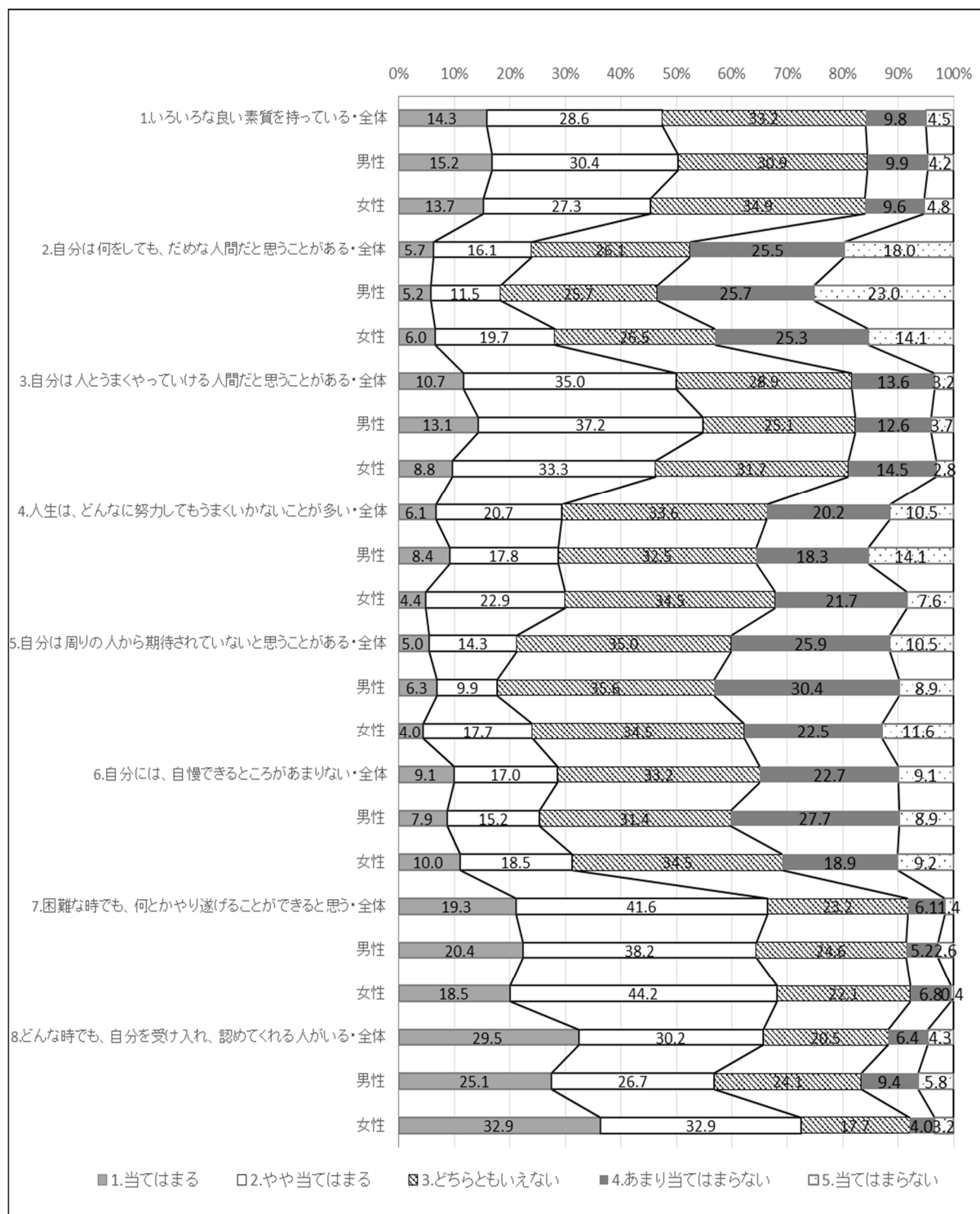
老人ホームなどで子供と老人の触れ合う時間を作る。人生経験のある人と触れ合うことで勉強にもなるし、その間、仕事に集中できる	男性	20代
女は結婚し、家に入るべきという古い考えと、それを支配する人間の意識を変える	女性	20代
民間企業では、育休など女性にとって必要なものが当たり前に取りれる職場は少ないと思う。取れているとしたらどこかにしわ寄せがあると思う。	女性	40代
社会福祉が充実すれば女は働かなくてもよくなると思う。昔に戻る事は現代の実情では無理と思われがちですが、欲を捨てれば出来ます	男性	50代
60歳以上の自分たちの介護の不安	女性	60代

VI 男女の人権について

1 自己評価について（問 22）

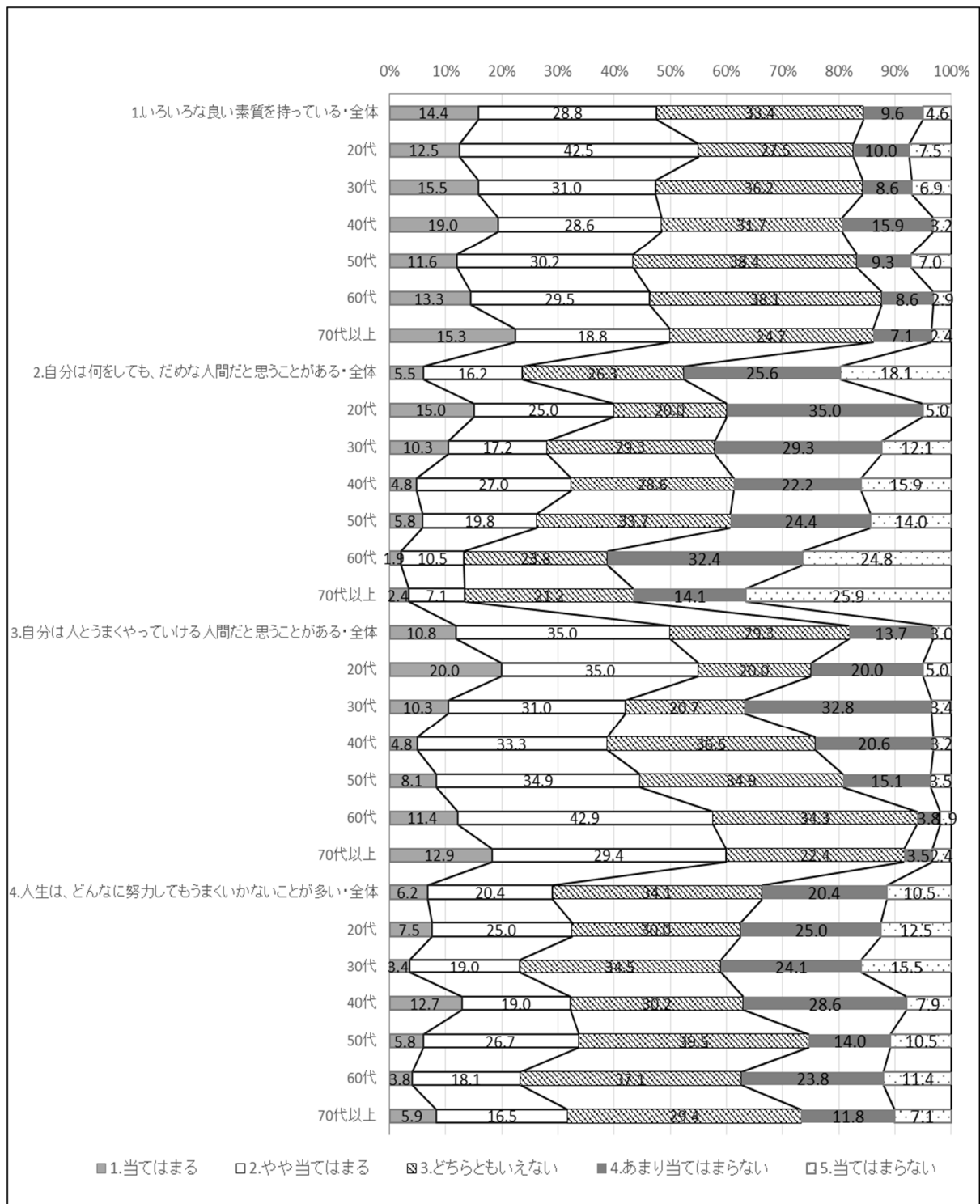
- ◆ 性別にみると、「自分は何をしても、だめな人間だと思うことがある（問 22s2）」は、男性において「あてはまる」が 5.2%、「ややあてはまる」が 12.6%に対し、女性は「あてはまる」が 6.6%、「ややあてはまる」が 21.5%と、男女差がある。一方で「自分を認めて受け止めてくれる（問 22s8）」は、男性において「あてはまる」が 27.6%、「ややあてはまる」が 29.3%に対し、女性は「あてはまる」が 36.3%、「ややあてはまる」が 36.3%と、男女差がある。
- ◆ 年代別に見ると、「自分は何をしても、だめな人間だと思うことがある（問 22s2）」は 40 代以降において「あてはまる」が 5 %前後に対し、20 代と 30 代は「あてはまる」が 10%を上回っており、年代差がある。
- ◆ 「自分は人とうまくやっていける人間だと思うことがある（問 22s3）」は、「あてはまる」は、20 代 20.0%、70 代以上 18.3%と、他の年代よりも高い。
- ◆ 「どんな時でも、自分を受け入れ、認めてくれる人がいる（問 22s8）」は、「あてはまる」が 20 代において 55.0%、30 代において 54.4%と、他の年代よりも高い。

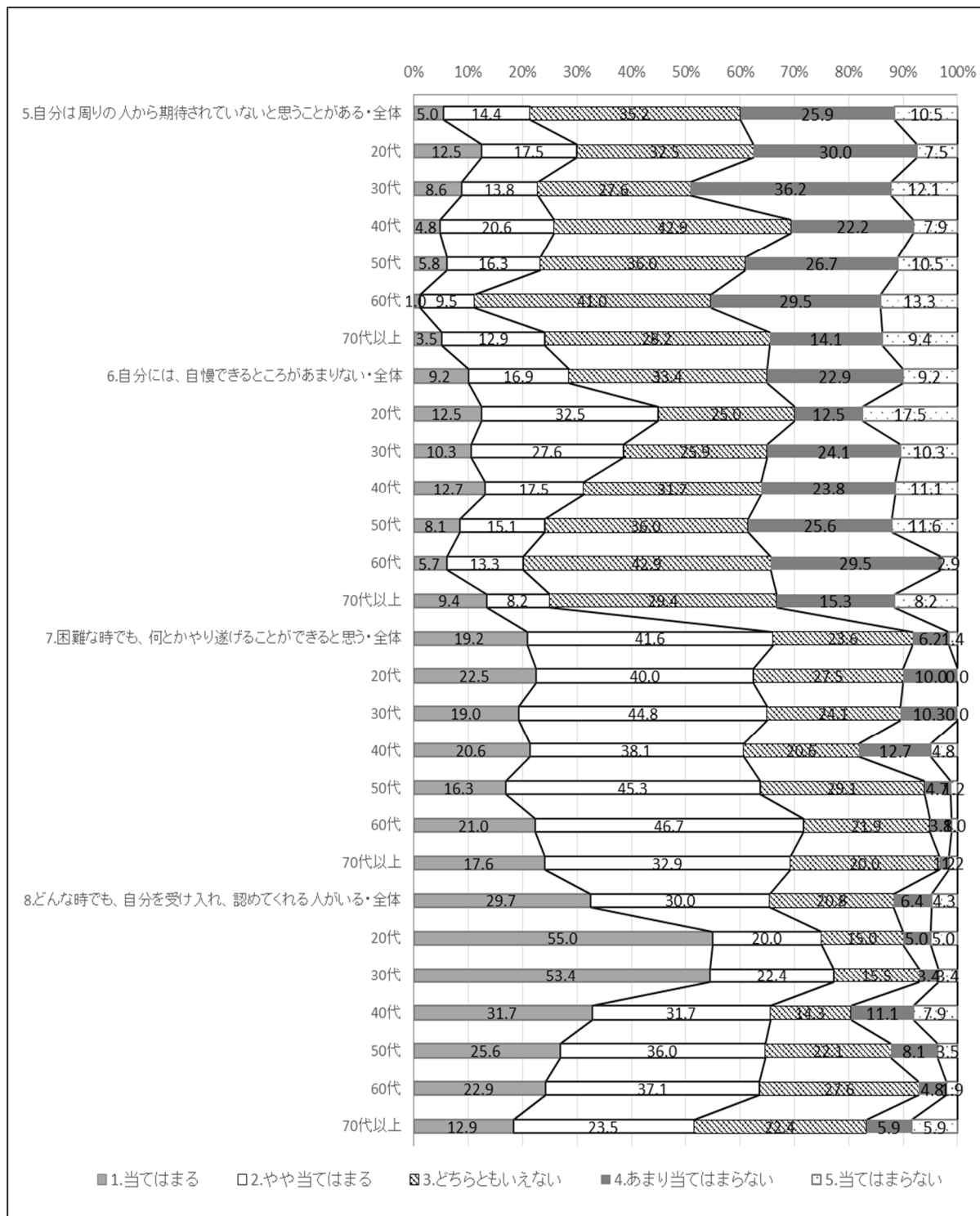
Q22. あなた自身が自分に対して思っていること								
項目文		度数	1.当てはまる	2.やや当てはまる	3.どちらともいえない	4.あまり当てはまらない	5.当てはまらない	無回答
			る	はまる			ない	
1.いろいろな良い素質を持っている	全体	440	14.3	28.6	33.2	9.8	4.5	9.6
	男性	191	15.2	30.4	30.9	9.9	4.2	9.4
	女性	249	13.7	27.3	34.9	9.6	4.8	9.6
2.自分は何をしても、だめな人間だと思うことがある	全体	440	5.7	16.1	26.1	25.5	18.0	8.6
	男性	191	5.2	11.5	25.7	25.7	23.0	8.9
	女性	249	6.0	19.7	26.5	25.3	14.1	8.4
3.自分は人とうまくやっていける人間だと思うことがある	全体	440	10.7	35.0	28.9	13.6	3.2	8.6
	男性	191	13.1	37.2	25.1	12.6	3.7	8.4
	女性	249	8.8	33.3	31.7	14.5	2.8	8.8
4.人生は、どんなに努力してもうまくいかないことが多い	全体	440	6.1	20.7	33.6	20.2	10.5	8.9
	男性	191	8.4	17.8	32.5	18.3	14.1	8.9
	女性	249	4.4	22.9	34.5	21.7	7.6	8.8
5.自分は周りの人から期待されていないと思うことがある	全体	440	5.0	14.3	35.0	25.9	10.5	9.3
	男性	191	6.3	9.9	35.6	30.4	8.9	8.9
	女性	249	4.0	17.7	34.5	22.5	11.6	9.6
6.自分には、自慢できるところがない	全体	440	9.1	17.0	33.2	22.7	9.1	8.9
	男性	191	7.9	15.2	31.4	27.7	8.9	8.9
	女性	249	10.0	18.5	34.5	18.9	9.2	8.8
7.困難な時でも、何とかやり遂げることができると思う	全体	440	19.3	41.6	23.2	6.1	1.4	8.4
	男性	191	20.4	38.2	24.6	5.2	2.6	8.9
	女性	249	18.5	44.2	22.1	6.8	0.4	8.0
8.どんな時でも、自分を受け入れ、認めてくれる人がいる	全体	440	29.5	30.2	20.5	6.4	4.3	9.1
	男性	191	25.1	26.7	24.1	9.4	5.8	8.9
	女性	249	32.9	32.9	17.7	4.0	3.2	9.2



Q22. あなた自身が自分に対して思っていること

項目文	度数	1.当てはまる	2.やや当てはまる	3.どちらともいえない	4.あまり当てはまらない	5.当てはまらない	無回答	検定結果
		る	はまる	いえない	はまらない	ない		
1.いろいろな良い素質を持っている	全体	437	14.4	28.8	33.4	9.6	4.6	9.2
	20代	40	12.5	42.5	27.5	10.0	7.5	0.0
	30代	58	15.5	31.0	36.2	8.6	6.9	1.7
	40代	63	19.0	28.6	31.7	15.9	3.2	1.6
	50代	86	11.6	30.2	38.4	9.3	7.0	3.5
	60代	105	13.3	29.5	38.1	8.6	2.9	7.6
	70代以上	85	15.3	18.8	24.7	7.1	2.4	31.8
2.自分は何をしても、だめな人間だと思ふことがある	全体	437	5.5	16.2	26.3	25.6	18.1	8.2 $\chi^2(5)=$
	20代	40	15.0	25.0	20.0	35.0	5.0	0.0 26.742,
	30代	58	10.3	17.2	29.3	29.3	12.1	1.7 $p<.01^{**}$
	40代	63	4.8	27.0	28.6	22.2	15.9	1.6
	50代	86	5.8	19.8	33.7	24.4	14.0	2.3
	60代	105	1.9	10.5	23.8	32.4	24.8	6.7
	70代以上	85	2.4	7.1	21.2	14.1	25.9	29.4
3.自分は人とうまくやっていける人間だと思ふことがある	全体	437	10.8	35.0	29.3	13.7	3.0	8.2 $\chi^2(5)=$
	20代	40	20.0	35.0	20.0	20.0	5.0	0.0 18.160,
	30代	58	10.3	31.0	20.7	32.8	3.4	1.7 $p<.01^{**}$
	40代	63	4.8	33.3	36.5	20.6	3.2	1.6
	50代	86	8.1	34.9	34.9	15.1	3.5	3.5
	60代	105	11.4	42.9	34.3	3.8	1.9	5.7
	70代以上	85	12.9	29.4	22.4	3.5	2.4	29.4
4.人生は、どんなに努力してもうまくいかないことが多い	全体	437	6.2	20.4	34.1	20.4	10.5	8.5
	20代	40	7.5	25.0	30.0	25.0	12.5	0.0
	30代	58	3.4	19.0	34.5	24.1	15.5	3.5
	40代	63	12.7	19.0	30.2	28.6	7.9	1.6
	50代	86	5.8	26.7	39.5	14.0	10.5	3.5
	60代	105	3.8	18.1	37.1	23.8	11.4	5.7
	70代以上	85	5.9	16.5	29.4	11.8	7.1	29.4
5.自分は周りの人から期待されていないと思ふことがある	全体	437	5.0	14.4	35.2	25.9	10.5	8.9
	20代	40	12.5	17.5	32.5	30.0	7.5	0.0
	30代	58	8.6	13.8	27.6	36.2	12.1	1.7
	40代	63	4.8	20.6	42.9	22.2	7.9	1.6
	50代	86	5.8	16.3	36.0	26.7	10.5	4.7
	60代	105	1.0	9.5	41.0	29.5	13.3	5.7
	70代以上	85	3.5	12.9	28.2	14.1	9.4	31.8
6.自分には、自慢できるところがない	全体	437	9.2	16.9	33.4	22.9	9.2	8.5
	20代	40	12.5	32.5	25.0	12.5	17.5	0.0
	30代	58	10.3	27.6	25.9	24.1	10.3	1.7
	40代	63	12.7	17.5	31.7	23.8	11.1	3.2
	50代	86	8.1	15.1	36.0	25.6	11.6	3.5
	60代	105	5.7	13.3	42.9	29.5	2.9	5.7
	70代以上	85	9.4	8.2	29.4	15.3	8.2	29.4
7.困難な時でも、何とかやり遂げることができると思う	全体	437	19.2	41.6	23.6	6.2	1.4	8.0
	20代	40	22.5	40.0	27.5	10.0	0.0	0.0
	30代	58	19.0	44.8	24.1	10.3	0.0	1.7
	40代	63	20.6	38.1	20.6	12.7	4.8	3.2
	50代	86	16.3	45.3	29.1	4.7	1.2	3.5
	60代	105	21.0	46.7	21.9	3.8	1.0	5.7
	70代以上	85	17.6	32.9	20.0	1.2	1.2	27.1
8.どんな時でも、自分を受け入れ、認めてくれる人がいる	全体	437	29.7	30.0	20.8	6.4	4.3	8.7 $\chi^2(5)=$
	20代	40	55.0	20.0	15.0	5.0	5.0	0.0 23.061,
	30代	58	53.4	22.4	15.5	3.4	3.4	1.7 $p<.01^{**}$
	40代	63	31.7	31.7	14.3	11.1	7.9	3.2
	50代	86	25.6	36.0	22.1	8.1	3.5	4.7
	60代	105	22.9	37.1	27.6	4.8	1.9	5.7
	70代以上	85	12.9	23.5	22.4	5.9	5.9	29.4





2 女性の人権の観点から問題があると思われること（問 23） *3 つ以内回答

- ◆ 女性の人権の観点から問題があると思われることとして、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を他の人に押しつけること」が 45.5% と全体的に高い。「職場における差別待遇」は男性が 39.8%、女性 31.7% と男性が高く、「地域の諸団体などの役職に女性が少ないこと」も男性 24.6%、女性 14.1% と男性が高い。

- ◆ 年代別にみると、「地域の諸団体などの役職に女性が少ないこと」は、70代以上の29.4%が問題視している。「家庭内における夫の妻への暴力」と「職場における肉体的・精神的なセクシュアル・ハラスメント」はどちらも30代の48.3%、40代の49.2%が問題視しており、他の年代より高い。また「女性の水着姿、裸体やこびたポーズなどを使用した広告・雑誌・新聞・映像など」は60代の15.2%、70代以上の16.5%が問題視しており、「風俗営業」も60代の16.2%、70代以上の12.9%が問題視しており、他の年代よりも高い。

Q23. 女性の人権における問題に関する各設問の性別集計

	1.男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家庭」などを他の人に押しつけること	2.職場における差別待遇	3.地域の諸団体などの役職に女性が少ないこと	4.家庭内における夫の妻への暴力(酒に酔って殴るなど)	5.職場における肉体的・精神的なセクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)	6.売春・買春(いわゆる「援助交際」を含む)	7.内容に関係なく女性の水着姿、裸体やこびたポーズなどを使用した広告・雑誌・新聞・映像など	8.風俗営業	9.その他	10.特になし	無回答	
度数												
全体	440	45.2	35.2	18.6	34.3	34.3	19.8	8.2	9.1	1.4	7.3	6.1
男性	191	44.5	39.8	24.6	37.2	34.0	20.9	6.8	6.8	1.6	9.9	3.1
女性	249	45.8	31.7	14.1	34.3	34.5	18.9	9.2	10.8	1.2	5.2	8.4

$$\chi^2(1)$$

$$=7.070,$$

$$p<.05^*$$

$$\chi^2(1)$$

$$=7.936,$$

$$p<.01^{**}$$

$$\chi^2(1)$$

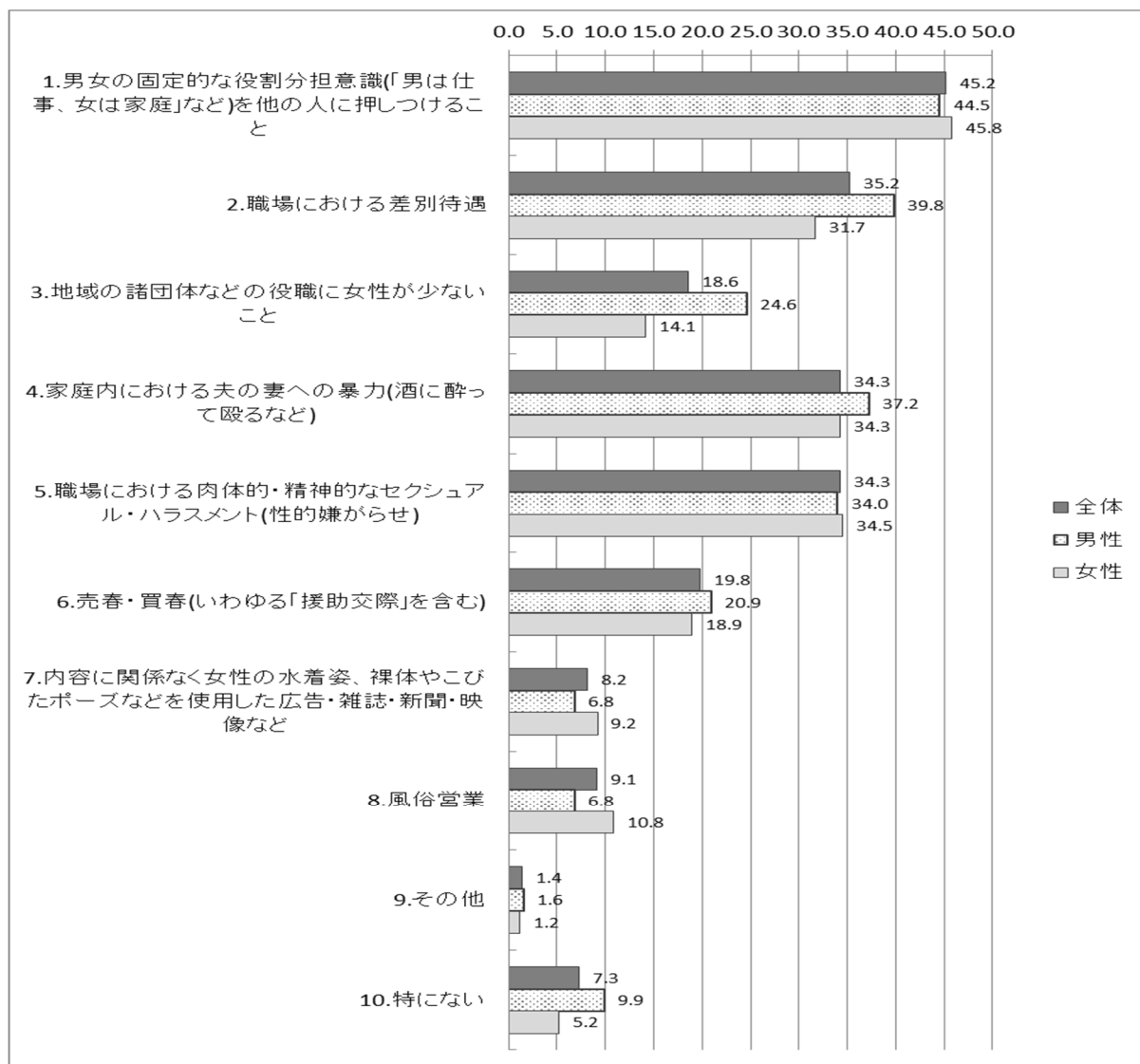
$$=6.468,$$

$$p<.05^*$$

$$\chi^2(1)$$

$$=7.981,$$

$$p<.05^*$$



Q23. 女性の人権における問題に関する各設問の年代別集計

	度数	1.男女の固 定的な役割 分担意識(「 男は仕事、 女は家庭」な ど)を他の人 に押しつけ ること	2.職場にお ける差別待 遇	3.地域の諸 団体などの 役職に女性 が少ないこ と	4.家庭内に おける夫の 妻への暴力 (酒に酔って 殴るなど)	5.職場にお ける肉体的 ・精神的な セクシュ アル・ハラ スメント(性的 嫌がらせ)	6.売春・買 春(いわゆる 「援助交際」 を含む)	7.内容に関 係なく女性 の水着姿、 裸体やこび たポーズな どを使用し た広告・雑 誌・新聞・映 像など	8.風俗営業	9.その他	10.特にない	無回答
全体	437	45.5	35.5	18.8	34.1	34.1	19.7	8.0	8.9	1.4	7.1	5.7
20代	40	52.5	40.0	5.0	35.0	42.5	20.0	2.5	5.0	2.5	5.0	2.5
30代	58	53.4	39.7	13.8	46.6	48.3	20.7	0.0	3.4	0.0	5.2	1.7
40代	63	52.4	38.1	17.5	49.2	49.2	17.5	3.2	1.6	0.0	1.6	3.2
50代	86	44.2	30.2	12.8	38.4	36.0	19.8	2.3	7.0	1.2	7.0	3.5
60代	105	41.9	36.2	23.8	23.8	33.3	18.1	15.2	16.2	1.9	8.6	5.7
70代以上	85	37.6	32.9	29.4	22.4	8.2	22.4	16.5	12.9	2.4	11.8	14.1

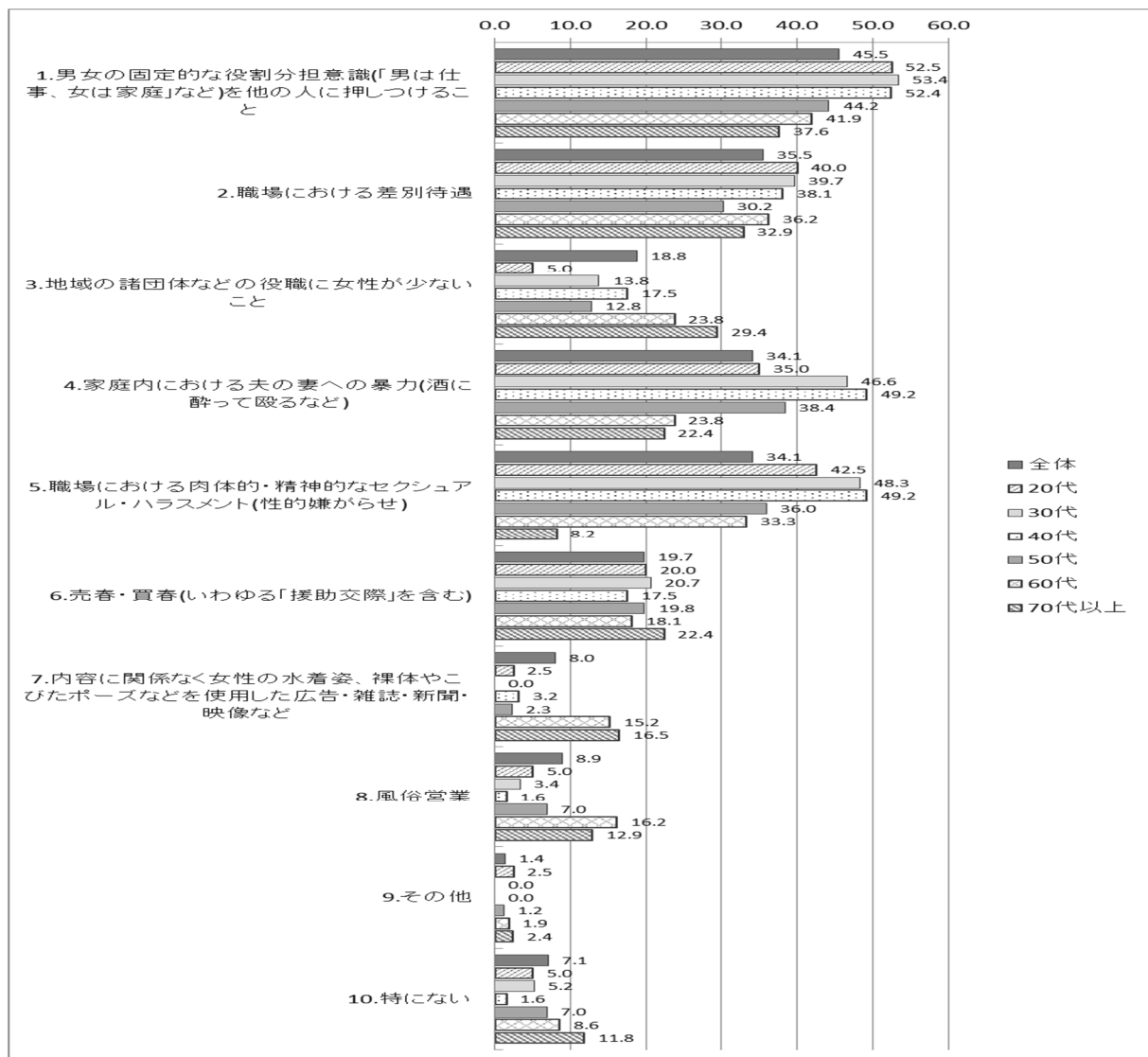
$$\chi^2(5) = 20.206, p < .01^{**}$$

$$\chi^2(5) = 17.596, p < .01^{**}$$

$$\chi^2(5) = 33.163, p < .01^{**}$$

$$\chi^2(5) = 31.349, p < .01^{**}$$

$$\chi^2(5) = 17.595, p < .01^{**}$$



<その他の回答>

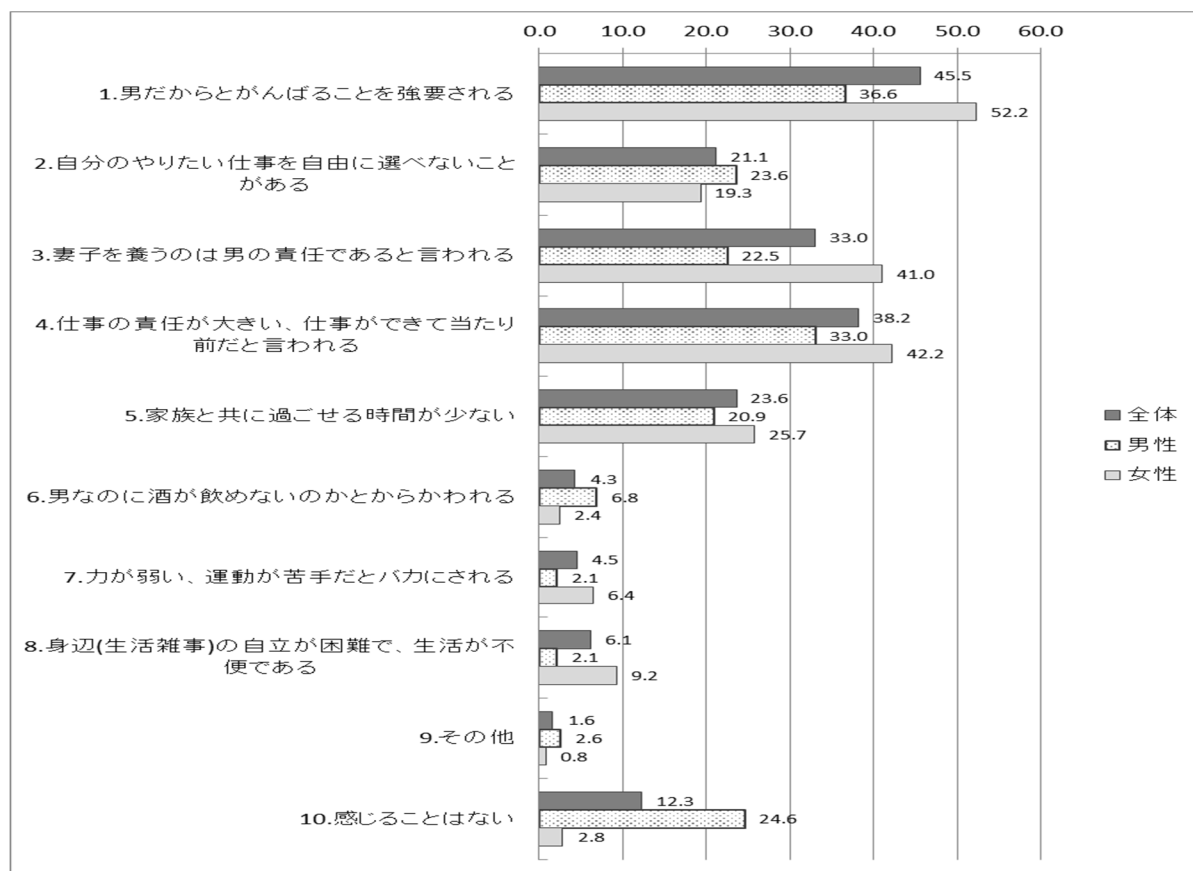
容姿の優劣で女性の価値を一方的に決めつけること	女性	20代
結婚すると女性が男性の性に変えることが普通と思われがちなこと。田舎は特に男性にいえに嫁ぐという意識	女性	50歳

3 「男もつらい」と感じる（思う）ときの理由（問 24） ※3 つ以内回答

- ◆ 「男もつらい」と感じる（思う）ときの理由に関しては、「男だからとがんばることを強要される」は女性 52.2%、男性 36.6%と、男女差がある。同様に、「妻子を養うのは男の責任であると言われる」は女性 41.0%、男性 22.5%、「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前と言われる」については、女性 42.2%、男性 33.0%と、いずれも、女性の方が、男性が実感している以上に、「男もつらい」と感じていることがわかる。「特に感じることはない」は男性 24.6%、女性 2.8%と、男女差が大きい。
- ◆ 年代別にみると、「男だからとがんばることを強要される」は 20 代が 65.0%と他の年代より高く、「家族と共に過ごせる時間が少ない」は 30 代が 39.7%と、他の年代よりも高い。また「身辺(生活雑事)の自立が困難で、生活が不便である」は 60 代が 11.4%と高い。

Q24. 男もつらい理由に関する各設問の性別集計

	1.男だからとがんばることを強要される	2.自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある	3.妻子を養うのは男の責任であると言われる	4.仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前と言われる	5.家族と共に過ごせる時間が少ない	6.男なのに酒が飲めないのかとバカにされる	7.力が弱い、運動が苦手だとバカにされる	8.身辺(生活雑事)の自立が困難で、生活が不便である	9.その他	10.感じることはない	無回答	
度数												
全体	440	45.5	21.1	33.0	38.2	23.6	4.3	4.5	6.1	1.6	12.3	5.9
男性	191	36.6	23.6	22.5	33.0	20.9	6.8	2.1	2.1	2.6	24.6	2.6
女性	249	52.2	19.3	41.0	42.2	25.7	2.4	6.4	9.2	0.8	2.8	8.4
	$\chi^2(1)$ =15.412, $p<.01^{**}$	$\chi^2(1)$ =21.037, $p<.01^{**}$	$\chi^2(1)$ =6.304, $p<.01^{**}$	$\chi^2(1)$ =4.432, $p<.05^{*}$	$\chi^2(1)$ =5.278, $p<.05^{*}$	$\chi^2(1)$ =10.585, $p<.01^{**}$						



Q24. 男もつらい理由に関する各設問の年代別集計

	度数	1.男だからとがんばることを強要される	2.自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある	3.妻子を養うのは男の責任であると言われる	4.仕事の責任が大きい、仕事ができたり前だと言われる	5.家族と共に過ごせる時間が少ない	6.男なのに酒が飲めないのかとからかわれる	7.力が弱い、運動が苦手だとバカにされる	8.身辺(生活雑事)の自立が困難で、生活が不便である	9.その他	10.感じることはない	無回答
全体	437	45.5	21.5	32.7	38.2	23.8	4.3	4.3	6.2	1.6	12.1	5.5
20代	40	65.0	10.0	40.0	47.5	17.5	5.0	5.0	0.0	5.0	7.5	0.0
30代	58	46.6	19.0	34.5	29.3	39.7	5.2	8.6	3.4	0.0	10.3	1.7
40代	63	50.8	22.2	31.7	46.0	19.0	0.0	3.2	7.9	0.0	11.1	1.6
50代	86	53.5	17.4	38.4	40.7	15.1	2.3	5.8	8.1	0.0	7.0	3.5
60代	105	37.1	22.9	29.5	37.1	25.7	5.7	2.9	11.4	3.8	14.3	5.7
70代以上	85	34.1	30.6	27.1	32.9	25.9	7.1	2.4	1.2	1.2	18.8	15.3

$$\chi^2(5)$$

$$=11.445,$$

$$p<.05^*$$

$$\chi^2(5)$$

$$=12.556,$$

$$p<.05^*$$

$$\chi^2(5)$$

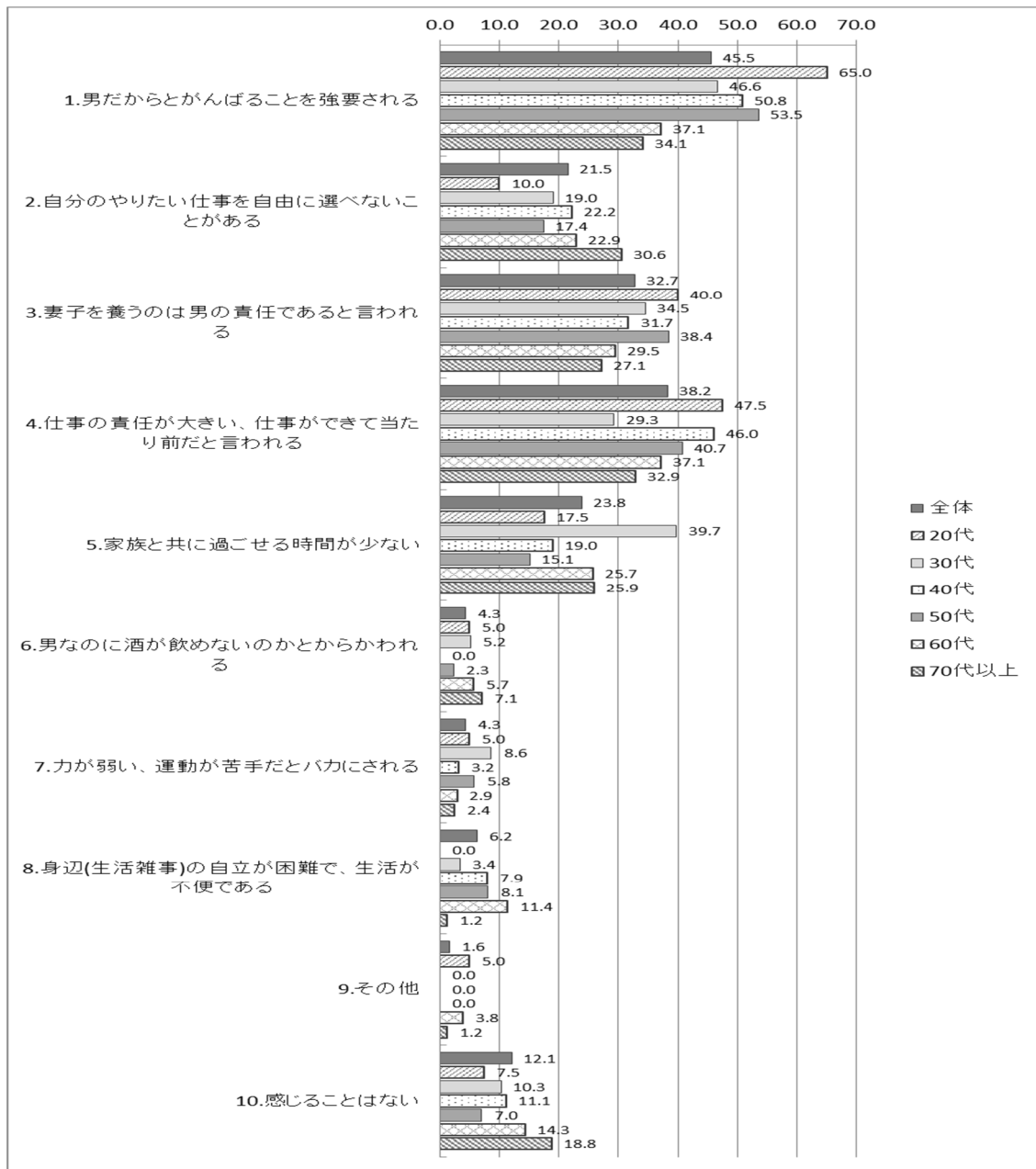
$$=14.657,$$

$$p<.05^*$$

$$\chi^2(5)$$

$$=12.554,$$

$$p<.05^*$$



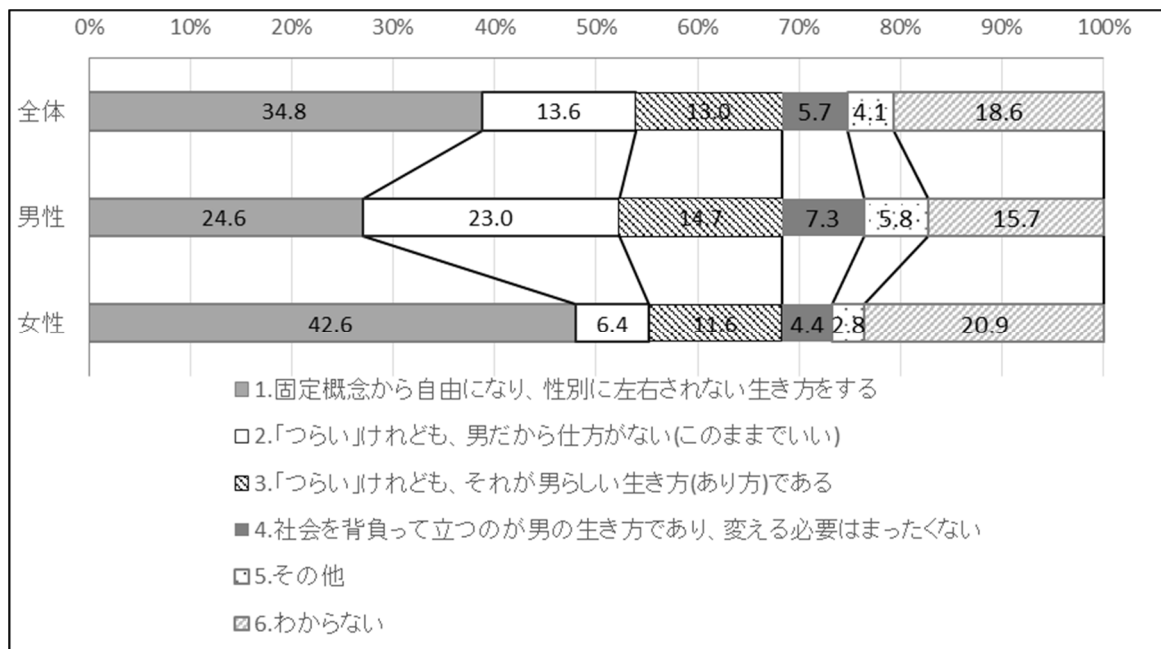
4 「男もつらい」と感じたときの対処（問 25）

- ◆ 「男もつらい」と感じたときに行なう対処は、「固定概念から自由になり、性別に左右されない生き方をする」が女性 48.0%、男性 27.0%と、男女差がみられる。一方、「つらいけれども男だから仕方がない」と現状を甘受するのは、男性 25.3%、女性 7.2%と男女差が顕著である。

性別集計: Q25. 対処方法: 男もつらいとき

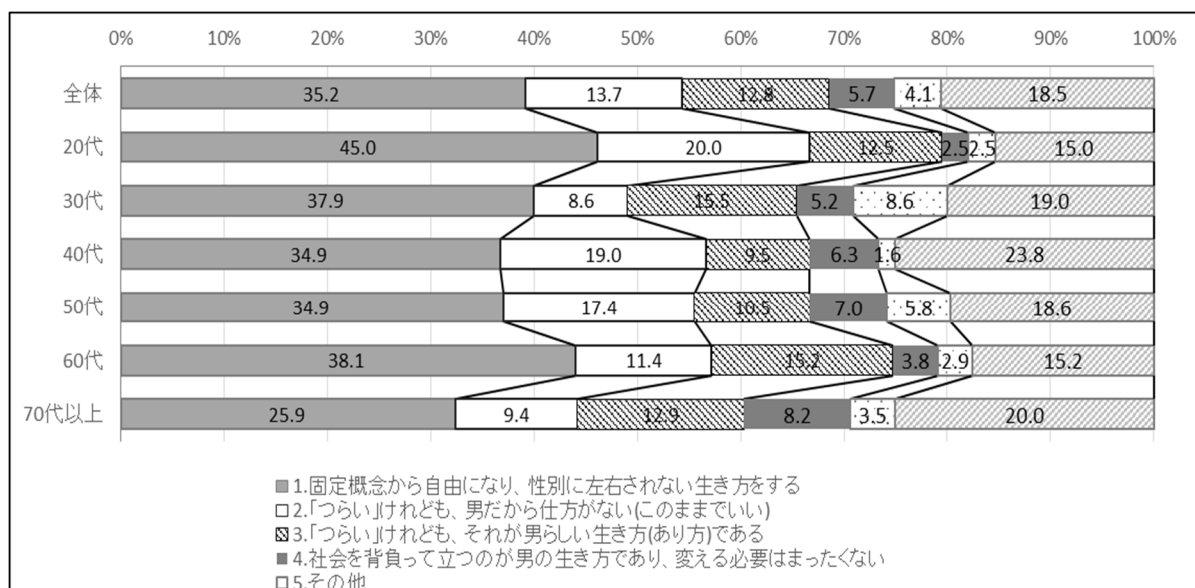
	度数	1.固定概念から自由になり、性別に左右されない生き方をする	2.「つらい」けれども、男だから仕方がない(このままでいい)	3.「つらい」けれども、それが男らしい生き方(あり方)である	4.社会を背負って立つのが男の生き方であり、変える必要はまったくない	5.その他	6.わからない	無回答
全体	440	34.8	13.6	13.0	5.7	4.1	18.6	10.2
男性	191	24.6	23.0	14.7	7.3	5.8	15.7	8.9
女性	249	42.6	6.4	11.6	4.4	2.8	20.9	11.2

$$\chi^2(3)=33.670, p<.01^{**}$$



年代別集計: Q25. 対処方法: 男もつらいとき

	度数	1.固定概念から自由になり、性別に左右されない生き方をする	2.「つらい」けれども、男だから仕方がない(このままでいい)	3.「つらい」けれども、それが男らしい生き方(あり方)である	4.社会を背負って立つのが男の生き方であり、変える必要はまったくない	5.その他	6.わからない	無回答
全体	437	35.2	13.7	12.8	5.7	4.1	18.5	9.8
20代	40	45.0	20.0	12.5	2.5	2.5	15.0	2.5
30代	58	37.9	8.6	15.5	5.2	8.6	19.0	5.2
40代	63	34.9	19.0	9.5	6.3	1.6	23.8	4.8
50代	86	34.9	17.4	10.5	7.0	5.8	18.6	5.8
60代	105	38.1	11.4	15.2	3.8	2.9	15.2	13.3
70代以上	85	25.9	9.4	12.9	8.2	3.5	20.0	20.0



<その他の回答>

保育や学童の時間の延長をしてもらえると仕事をもっと充実できる。	男性	20代
育児、家事、仕事、生活すべてにおいて、協力してお互いに得意分野を生かしていく。夫婦で日頃からよく話し合う。	女性	30代
「つらい」けれども、自分が幸せになる為に頑張って「つらい」と感じる事がなくなるような行動をして生活を改善する。	女性	30代
つらいと思うことも人それぞれなので。	女性	30代
ある程度は、社会の安定を保つために性別による固定概念は必要であると思うが、本当につらいときに「つらい」と言える環境が必要	女性	30代
その時。その状況下で判断しながら生きていく	女性	30代
方法は特にないと思う	男性	50代
時にはつらさを口にして、心にためない。	女性	50代
感じる事がないので・・・	男性	60代
無視する	女性	60代
いじめとかばかにされる事に対して負けない気持ちを持つ	男性	70代以上
特に男だからとつらく感じる事はない	男性	70代以上

5 配偶者、パートナー、恋人からされたことのある行為（問 26）

- ◆ 配偶者等から望まない行為をされた割合は、総じて、女性において高く、「医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける」は、女性の 3.1%が「何度もあった」あるいは「時々あった」と回答しているのに対し、男性 0%である。同様に、「嫌がっているのに性的な行為を強要される」では、女性の 13.0%が「何度もあった」あるいは「時々あった」と回答しているが、男性では、合わせて 1.8%である。「何度もあった」と「時々あった」を合わせると、『誰のおかげで生活できるんだ』『かいしようなし』などと言われる」は、女性の 13.5%に対して、男性は 4.8%である。「生活費を渡されない」は、女性 11.5%に対して、男性 2.4%である。「大声で怒鳴られる」は、女性 25.7%、男性 15.0%、といずれも女性の方が経験率が高い。
- ◆ 年代別にみると「交友関係や電話を細かく監視される」は「何度もあった」と「時々あった」の合計が 40代は 23.6%であるのに対し、他の年代は 1割前後と年代差がみられる。